

## 明豊祭の作文 前号から引き続き、明豊祭の作文を紹介します。次は3組です。

明豊祭が一週間前になり、放課後練習が始まった。絶対に最優秀賞をとるぞとクラスが団結していた。しかし、僕は歌を歌うのがあまり得意ではなく、自分だけが下手だったらどうしようなどと不安な気持ちがあった。いざ練習が始まると、歌えないからといって誰も責める人はいなくてみんながうまく歌えるようにアドバイスをしてくれた。いつの間にか歌を歌うことに對して不安な気持ちはなくなっていた。さらに、練習の時にふざける人も誰もいなくて、僕はこのクラスでよかったなと改めて思った。

そして、明豊祭当日。みんなとても緊張していたが、今まで練習してきたから大丈夫だと信じて精一杯歌った。全員の合唱が終わり、結果発表をする時間がやってきた。3組は最優秀賞も優秀賞もとれなかった。しかし、みんなで心を合わせて歌った時間は最高の時間だったと思った。

私は、明豊祭の放課後練習のときに頑張ったことがある。それは、パートリーダーとして同じパートのみんなをまとめたことだ。今日の目標や改善点を出すことで、次に何をすればよいかを理解する。次の日にその改善したい部分が改善できているとうれしくなった。また、今までパートごとに少しずれていた最初の入りの部分がある日全員の拍やリズムが合ったときがあった。それをきいた私は、言葉で表現しにくいけれど、自分でもわかるくらい胸が高鳴った。そのときのことを私は忘れられない。

ついに迎えた本番。1年3組は、トップバッターだった。みんなも緊張していて、ステージの上に立った瞬間、身が引き締まるような感じがした。結果は最優秀賞でも優秀賞でもなかったけれど、みんなとステージ上に立てたことがとてもうれしかった。来年は1位をとることを目標にして頑張っていきたい。

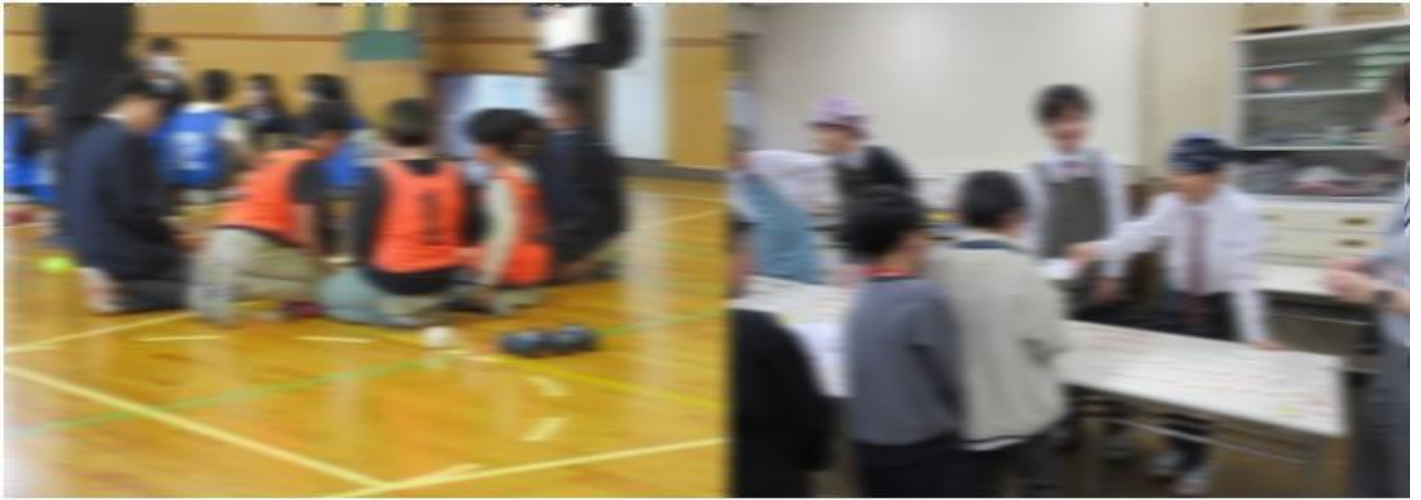
## 気になっています・・・

一年生もあと4か月余りになり、すっかり中学生としての生活が定着してきましたが、最近の皆さんの話している言葉の中で、気になる言葉をよく耳にしています。人を傷つけるような言葉を使うことがくせになってしまっている人、いませんか？

言葉は人の心をあたためたり、勇気づけたりすることもできますが、その逆もあるのです。一度言ってしまった言葉はもう取り返すことができません。言った本人が口癖のように何の気なしに使った言葉でも、言われた本人はとげが刺さったように感じているかもしれません。とげは刺さってしまうと自然には抜けません。今一度、自分の使っている言葉について考えてみましょう。そして、話すときに人を思いやる言葉にできるように意識してみましょう。

# リトル ティーチャー

11月19日の午後、さくら小にて小中連携教育にかかわるリトルティーチャーが行われました。1年生の37名が活躍し、その一部を写真に収めましたので紹介します。



みなさんの卒業した小学校の先生  
方も多数見学に来られていて、  
中学生になってからの成長を感じ  
ましたとお話しされていました。